展示風景

拡張する東京
ミニ展示 松室致の大礼服の修復
1920年の大学昇格にあたり、資金集めや富士見校地の開発、教職員体制や組織の整備など、法政大学の基礎を構築することに大きく尽力したのが法政大学の初代学長である松室致です。松室は、司法大臣を二度務める一方で、法政大学の学長を1913年6月から1931年2月まで務めました。
HOSEIミュージアムでは、松室に関する資料を所蔵していますが、そのひとつが大礼服（たいれいふく）です。大礼服は太政官布告により1872年に制定され、1954年に廃止されるまで、主に宮中の公式儀式などで着用する最上位の礼服でした。松室が、大礼服を着用している姿は写真
大礼服を着た松室致
ミニ展示 松室致の大礼服の修復
松室の大礼服は、HOSEIミュージアムに収蔵されて以降、特別展示などで、度々展示されてきました。しかし、その細部を見ると、刺繍のほつれやスパンコールの剥落、生地の裂け目が生じていたため、2024年1月～3月に染織品の保存修復士による修復を行いました。
今回の展示が、修復後の大礼服のはじめての展示となります。元来の美しさを取り戻した大礼服、ぜひ細部までご鑑賞ください。
修復前
修復後
修復前・修復後
修復の様子